

改訂日:2022年04月15日

安全データシート

1.【製品及び会社情報】

カタログ番号 212185
製品名 BD Difco™ マリンアガー2216
会社名 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
住所 東京都港区赤坂4丁目15番1号
連絡先 0120-8555-90
使用上の制限 研究用試薬

2.【危険有害性の要約】

GHS 分類

| | | |
|-----------|------------------|-----------|
| 物理化学的危険性 | 爆発物 | 区分に該当しない |
| | 可燃性ガス | 区分に該当しない |
| | 可燃性エアゾール | 区分に該当しない |
| | 酸化性ガス | 区分に該当しない |
| | 高压ガス | 区分に該当しない |
| | 引火性液体 | 区分に該当しない |
| | 可燃性固体 | 分類できない |
| | 自己反応性化学品 | 分類できない |
| | 自然発火性液体 | 区分に該当しない |
| | 自然発火性固体 | 分類できない |
| | 自己発熱性化学品 | 分類できない |
| | 水反応可燃性化学品 | 分類できない |
| | 酸化性液体 | 区分に該当しない |
| | 酸化性固体 | 分類できない |
| | 有機過酸化物 | 分類できない |
| | 金属腐食性物質 | 分類できない |
| | 鈍性化爆発物 | 分類できない |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口) | 分類できない |
| | 急性毒性(経皮) | 分類できない |
| | 急性毒性(吸入:ガス) | 区分に該当しない |
| | 急性毒性(吸入・蒸気) | 分類できない |
| | 急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) | 分類できない |
| | 皮膚腐食性/刺激性 | 分類できない |
| | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 分類できない |
| | 呼吸器感作性 | 分類できない |
| | 皮膚感作性 | 分類できない |
| | 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| | 発がん性 | 分類できない |
| | 生殖毒性 | 分類できない |
| | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 区分 2(消化管) |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 分類できない |
| | 誤えん有害性 | 分類できない |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) | 分類できない |
| | 水生環境有害性 長期(慢性) | 分類できない |

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

消化管の障害のおそれ

注意書き
安全対策

- ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。

応急措置
保管

- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- 換気の良い、冷暗所で保管すること。

廃棄

- 容器を密閉しておくこと。
- 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

3.【組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別 混合物

| 化学名または一般名 | 濃度 (%) | CAS 番号 | 官報公示整理番号 | |
|-----------|-----------|-----------|----------|-----|
| | | | 化審法 | 安衛法 |
| 硫酸ナトリウム | 5.0-6.0 | 7757-82-6 | (1)-501 | - |
| 炭酸水素ナトリウム | 0.20-0.30 | 144-55-8 | (1)-164 | - |
| 炭酸ナトリウム | 0.10-0.20 | 497-19-8 | (1)-164 | - |

4.【応急措置】

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
皮膚を石鹼と流水、シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
気分が悪いときは、医師の診断を受けること。

5.【火災時の措置】

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
棒状放水

使ってはならない消火剤

6.【漏出時の措置】人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

適切な保護具を着用すること。
十分な換気を行う。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

不活性物質に吸収させて、容器に回収する。

7.【取扱い及び保管上の注意】

取扱い

| | |
|--------------|--|
| 技術的対策 | 『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 |
| 安全取扱注意事項 | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 |
| 接触回避 衛生対策 | 『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。 |
| 保管 | |
| 技術的対策 | 消防法の規制に従う。 |
| 混触禁止物質 | 『10. 安定性及び反応性』を参照。 |
| 安全な保管条件 | 容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 |

8.【ばく露防止及び保護措置】

製品としての情報がないため以下、硫酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウムの情報を記載する。

硫酸ナトリウム

| | |
|-----------------|---|
| 管理濃度 | 未設定 |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | 未設定(2019年版) |
| ACGIH(TLV-TWA) | 未設定(2019年版) |
| ACGIH(TLV-STEL) | - |
| 設備対策 | 粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | 適切な呼吸器保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | 適切な保護手袋を着用すること。 |
| 眼の保護具 | 適切な眼の保護具を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 |

炭酸水素ナトリウム

| | |
|-----------------|--|
| 管理濃度 | 未設定 |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | 未設定(2013年版) |
| ACGIH(TLV-TWA) | 未設定(2013年版) |
| ACGIH(TLV-STEL) | - |
| 設備対策 | この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | 適切な呼吸器保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | 適切な保護手袋を着用すること。 |
| 眼の保護具 | 適切な眼の保護具を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 |

炭酸ナトリウム

| | |
|-----------------|-------------|
| 管理濃度 | 未設定 |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | 未設定(2007年版) |
| ACGIH(TLV-TWA) | 未設定(2007年版) |
| ACGIH(TLV-STEL) | - |

| | |
|------------|--|
| 設備対策 | この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | 適切な呼吸器保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | 適切な保護手袋を着用すること。 |
| 眼の保護具 | 適切な眼の保護具を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 |

9.【物理的及び化学的性質】

| | |
|---------------------------|-------|
| 物理的状态、形状、色など | 固体 |
| 臭い | 特異臭 |
| pH | データなし |
| 融点/凝固点 | データなし |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | データなし |
| 引火点 | データなし |
| 可燃性 | データなし |
| 爆発下限及び爆発上限界/ 可燃限界 | データなし |
| 自然発火点 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| 動粘性率 | データなし |
| 溶解度(水) | 可溶 |
| n-オクタノール/水分配係数 (log 値) | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度及び/又は相対密度 | データなし |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |

10.【安定性及び反応性】

製品としての情報がないため以下、硫酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウムの安定性及び反応性情報を記載する。

硫酸ナトリウム

| | |
|------------|--------------------------------|
| 反応性 | 「危険有害反応可能性」を参照。 |
| 化学的安定性 | 情報なし |
| 危険有害反応可能性 | 加熱により分解すると、硫黄酸化物及び酸化ナトリウムを生じる。 |
| 避けるべき条件 | 混触危険物質との接触 |
| 混触危険物質 | アルミニウム、マグネシウム |
| 危険有害な分解生成物 | 硫黄酸化物、酸化ナトリウムの有毒なヒューム |

炭酸水素ナトリウム

| | |
|------------|--|
| 反応性 | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 |
| 化学的安定性 | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 |
| 危険有害反応可能性 | 水溶液は弱アルカリ性である。 酸と激しく反応する。 マグネシウム、五酸化リンと反応し、爆発の危険をもたらす。 |
| 避けるべき条件 | 加熱、酸との混合 |
| 混触危険物質 | 酸 |
| 危険有害な分解生成物 | 約 50℃で二酸化炭素を放出する。 |

炭酸ナトリウム

| | |
|------------|---|
| 反応性 | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 |
| 化学的安定性 | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 |
| 危険有害反応可能性 | 水溶液は中程度の強さの塩基である。 酸と激しく反応する。 マグネシウム、五酸化リンと反応し、爆発の危険をもたらす。 |
| 避けるべき条件 | 情報なし |
| 混触危険物質 | 酸、マグネシウム、五酸化リン |
| 危険有害な分解生成物 | 情報なし |

11.【有害性情報】

製品としての情報がないため以下、硫酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウムの有害性情報を記載する。

硫酸ナトリウム

急性毒性

経口(ラット LD₅₀) (1) より、区分に該当しない。
【根拠データ】
(1) ラットの LD50: > 10,000 mg/kg (SIDS (2006))

経皮(ウサギ LD₅₀) データ不足のため分類できない。

吸入(ラット LC₅₀) データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性/刺激性

(1)、(2) より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) OECD TG 404 に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験で非刺激性 (Not irritating) と判定されている (SIDS (2006)、REACH 登録情報 (Access on September 2019))。

(2) 本物質は皮膚刺激性を示さず、眼に対して軽度の刺激性を示す。また、感作性はほとんどない (SIDS (2006))。

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

(1)、(2) より、区分 2B とした。

【根拠データ】

(1) OECD TG 405 に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で軽度刺激性と判定されており、全ての所見は7日後以内に回復した (SIDS (2006)、REACH 登録情報 (Access on September 2019))。

(2) 本物質は皮膚刺激性を示さず、眼に対して軽度の刺激性を示す。また、感作性はほとんどない (SIDS (2006))。

呼吸器感作性

データ不足のため分類できない。

皮膚感作性

(1)、(2) より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) モルモットを用いた皮膚感作性試験 (マキシマイゼーション法) の OECD TG 406 において、皮膚反応は認められず陰性と結論されている (REACH 登録情報 (Accessed on September, 2019))。

(2) 本物質は皮膚刺激性を示さず、眼に対して軽度の刺激性を示す。また、感作性はほとんどない (SIDS (2006))。

生殖細胞変異原性

本物質の in vivo データはないものの、証拠の重み付け (WoE) に基づき、(1) より、本物質はガイダンスにおける分類できないに相当し、区分に該当しない。

【根拠データ】

(1) in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性の報告がある (SIDS (2006)、食品安全委員会 添加物評価書 (2013) 硫酸カリウム)。食品安全委員会による評価では、硫酸のカリウム塩を被験物質とした試験においていずれも陰性の結果が得られていることから、総合的な判断として、添加物「硫酸カリウム (CAS 番号 7778-80-5)」は生体にとって特段問題となる遺伝毒性はな

| | |
|-------------------|--|
| 発がん性 生殖毒性 | いと結論付けられている。 データ不足のため分類できない。 本物質の in vivo データはないものの、証拠の重み付け (WoE) に基づき、(1) より、本物質はガイダンスにおける分類できないに相当し、区分に該当しない。 【根拠データ】 (1) in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性の報告がある (SIDS (2006)、食品安全委員会 添加物評価書 (2013) 硫酸カリウム)。食品安全委員会による評価では、硫酸のカリウム塩を被験物質とした試験においていずれも陰性の結果が得られていることから、総合的な判断として、添加物「硫酸カリウム (CAS 番号 7778-80-5)」は生体にとって特段問題となる遺伝毒性はないと結論付けられている。 |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | (1) より、区分 1 (消化管) とした。 【根拠データ】 (1) ヒトにおいて医療目的で緩下剤として約 300 mg/kg、最大限 20 g の用量で経口投与により使用されたが、激しい下痢と腹部痙痛を生じるために、使用されなくなりつつある (SIDS (2006))。 |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | (1)、(2) より、吸入及び経口経路について区分に該当しない。 【根拠データ】 (1) 本物質の粉じんに 2 ヶ月～31 年間ばく露された男性作業員 119 名を対象とした横断研究において、全例の尿中から無機硫酸塩が 2.2 g/L を超える濃度で検出され、30% の作業員で 3 g/day を超える無機硫酸塩排泄がみられた。作業員への粉じんばく露で唯一みられた症状は鼻の刺激と鼻水であった (SIDS (2006))。 (2) 雄ラットを用いた 4 週間混餌投与試験で、最高用量の約 2,000 mg/kg/day まで毒性影響はみられなかった (SIDS (2006))。 |
| 誤えん有害性 | データ不足のため分類できない。 |
| 炭酸水素ナトリウム 急性毒性 | 経口(ラット LD ₅₀) > 4,000 mg/kg、7,334 mg/kg、4,220-8,290 mg/kg の報告 (SIDS (2004)) に基づき、区分外とした。 経皮(ウサギ LD ₅₀) > 2,000 mg/kg の報告 (農薬工業会 (1996)) に基づき、区分外とした。 吸入(ラット LC ₅₀) ラットの LC ₅₀ 値として、> 4.74 mg/L (4.5 時間) (4 時間換算値: 5.33 mg/L) の報告 (SIDS (2004)) に基づき、区分外とした。なお、試験実施方法の記載から粉じんによる試験とみなして mg/L を単位とする基準値を適用した。 |
| 皮膚腐食性/刺激性 | ウサギを用いたテストガイドラインに準拠した試験において極めて軽度の刺激 (皮膚一次刺激性スコア=0.3) との結果 (SIDS (2004)) に基づき区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷性/刺激性 | SIDS (2004) に 5 例のデータが報告されており、信頼性の高い EPA TSCA ガイドラインに準拠した試験で 24 時間後のスコア値 (MMTS) が 8.3 (わずかな刺激性) との結果があることから区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。 |
| 呼吸器感作性 | データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚感作性 | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖細胞変異原性 | データ不足のため分類できない。 |
| 発がん性 | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖毒性 | データ不足のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 経口経路の報告は全てガイダンスの範囲外 (3,000-9,000 mg/kg) の用量を投与した試験であり、自発運動の抑制、歩行失調、浅呼吸など一時的な症状がみられたが後に回復している (SIDS (2004))、農薬工業 |

**特定標的臓器毒性(反復ばく露)
誤えん有害性**

会(1996))。なお、ラットの吸入ばく露(ミスト)においては、ガイドンスの上限近傍の濃度(4.74 mg/L)で、一時的な運動抑制、円背位、流涙、鼻汁がみられたが回復性であった。経皮経路においては、ラットにガイドンスの範囲の最高用量(2,000 mg/kg)の原体をばく露した試験において死亡及び毒性症状はみられなかったとの記載がある(農薬工業会(1996))。以上の結果から区分外とした。

データ不足のため分類できない。
データ不足のため分類できない。

**炭酸ナトリウム
急性毒性**

経口(ラット LD₅₀) 2800mg/kg、および 4090mg/kg(SIDS (access on July 2008))はいずれも JIS の分類基準の区分外に該当する(国連 GHS では区分5に該当)。

経皮(ウサギ LD₅₀) > 2000mg/kg(SIDS (access on July 2008))により区分外とした。

吸入(ラット LC₅₀) 1.2 mg/L(SIDS (access on July 2008))より区分 4 とした。

皮膚腐食性/刺激性

ウサギ皮膚に4あるいは24時間適用した試験で紅斑および浮腫ともスコアは0、刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS (access on July 2008))が得られ、さらにヒトのパッチテストでも4時間適用により紅斑および浮腫ともスコアは0、刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS (access on July 2008))が得られていることに基づく。なお、ウサギおよびヒトとも損傷皮膚に適用した場合には一次刺激性指数は2以上となり若干の刺激性が報告されている(SIDS (access on July 2008), ECETOC No.66 (1995))。

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

ウサギを用いた試験において、「刺激性なし(not irritating)」～「強い刺激性(highly irritating)」と相反する結果(SIDS (access on July 2008))が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹彩、結膜(発赤、浮腫)に症状が発生し、14日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均(MMTS)が105と報告されている。また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後1時間で角膜混濁を生じ重度の影響が7日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で3.8、虹彩で2であり、一部の動物で角膜パンヌスおよび円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分1に該当する。なお、pH = 11.58 (5 wt% aqueous sol. at 25°C) (HSDB (2003))である。

呼吸器感作性

データ不足のため分類できない。

皮膚感作性

データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。

発がん性

データ不足のため分類できない。

生殖毒性

ラット、マウスおよびウサギのそれぞれ器官形成期に経口投与した試験でいずれも母体への毒性および催奇形性を含め発生毒性は認められていない(SIDS (access on July 2008))が、親動物の性機能、生殖能に対する影響に関してデータはなく分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3-4時間後に治まった(SIDS (access on July 2008))との記載より区分3(気道刺激性)とした。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、し眠が記述され、生存例では5日目までに症状が消失している(SIDS (access on July 2008))。また、経皮投与後24時間の間にし眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている(SIDS (access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分3(麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ラットに70 mg/m³/4h(0.0467 mg/L/6h)を3.5ヵ月間吸入ばく露した

試験で、局所影響として気管支上皮の肥厚と剥離、脈管周囲の浮腫が観察された(SIDS (access on July 2008))が、この所見のみで重大な毒性影響とは判断できない。さらに、雄のみ、一用量のみの試験であり、ばく露による影響についてその他に記載もなく分類できない。データ不足のため分類できない。

誤えん有害性

12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、硫酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウムの環境影響情報を記載する。

硫酸ナトリウム

生態毒性

水生環境有害性(急性) 藻類(セレナストラム) 72 時間 EC50 = 1584.583 mg/L (AQUIRE, 2019, Simmons, 2012)、甲殻類(ニセネコゼミジンコ) 48 時間 EC50 = 3150.21 mg/L (AQUIRE, 2019, Soucek, 2007)、魚類(ファットヘッドミノー) 96 時間 LC50 = 7960 mg/L (AQUIRE, 2019, Mount, 1997) であることから、区分に該当しないとした。

水生環境有害性(慢性) 無機化合物につき環境中動態が不明であるが、藻類(セレナストラム) 72 時間 NOEC = 1060 mg/L SO4 (NaSO4 換算値: 1265 mg/L)、甲殻類(ニセネコゼミジンコ) 7 日間 NOEC = 610 mg/L SO4 (NaSO4 換算値: 728 mg/L)、魚類(ニジマス)の 31 日間 NOEC = 205 mg/L SO4 (NaSO4 換算値: 245 mg/L) (いずれも AQUIRE, 2019, Elphick, 2011) であることから、区分に該当しないとした。

残留性・分解性

データなし

土壌中の移動性

データなし

生態蓄積性

データなし

オゾン層への有害性

該当しない

炭酸水素ナトリウム

生態毒性

水生環境有害性(急性) 甲殻類(ニセネコゼミジンコ)の 48 時間 EC50 = 1020 mg/L (SIDS, 2004)、魚類(ニジマス)の 96 時間 LC50 = 7700 mg/L (SIDS, 2004) から区分外とした。

水生環境有害性(慢性) 慢性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動が不明であるが、甲殻類(オオミジンコ)の 21 日間 NOEC(繁殖、生存) > 576 mg/L (SIDS, 2004) であることから、区分外となる。
慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動が不明であるが、魚類(ニジマス)の 96 時間 LC50 = 7700 mg/L (SIDS, 2004) であることから、区分外となる。
以上の結果から、区分外とした。

残留性・分解性

データなし

土壌中の移動性

データなし

生態蓄積性

データなし

オゾン層への有害性

分類できない

炭酸ナトリウム

生態毒性

水生環境有害性(急性) 甲殻類(ミジンコ)での 48h-EC50 = 250mg/L (SIDS 2002) であることから、区分外とした。

水生環境有害性(慢性) 難水溶性ではなく(水溶解度 = 5307mg/L、PHYSPROP Database 2008)、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

| | |
|-----------|-------|
| 残留性・分解性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |
| 生態蓄積性 | データなし |
| オゾン層への有害性 | 該当しない |

13.【廃棄上の注意】

| | |
|----------|--|
| 残余廃棄物 | 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 |
| 汚染容器及び包装 | 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。 |

14.【輸送上の注意】

国際規制

| | |
|--------|-----------------|
| 国連番号 | 危険物として規制されていない。 |
| 国連品名 | 該当しない |
| 国連分類 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 該当しない |

国内規制

| | |
|--------|------------|
| 陸上規制情報 | 消防法の規定に従う。 |
| 海上規制情報 | 該当しない |
| 航空規制情報 | 該当しない |

15.【適用法令】

| | |
|------------------------|-----------------------------------|
| 労働安全衛生法 | 該当しない |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) | 該当しない |
| 毒物及び劇物取締法 | 該当しない |
| 大気汚染防止法 | 該当しない |
| 海洋汚染防止法 | 有害液体物質 (Z類物質) (硫酸ナトリウム溶液、炭酸ナトリウム) |
| 消防法 | 危険物非該当 |
| 船舶安全法 | 該当しない |
| 航空法 | 該当しない |

16.【その他の情報】

参考文献

安全衛生情報センター モデル MSDS 情報データベース
GHS 混合物分類判定システム
NITE 総合検索

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における科学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いいたします。

| | | |
|------|-------|-------------|
| 改訂履歴 | 新規作成 | 2014年09月16日 |
| | 改訂第1版 | 2014年10月03日 |
| | 改訂第2版 | 2014年11月25日 |
| | 改訂第3版 | 2022年04月15日 |